

広島県福山市鞆港ライトフェスタを対象としたイベント参加者の意識調査

日本大学 学生員 ○中谷 宏
 日本大学 学生員 伊藤 知真理
 日本大学 正会員 伊東 英幸
 日本大学 正会員 伊東 孝

1. はじめに

広島県福山市鞆の浦では、「鞆まちづくり工房」などの NGO や有志が中心となって、「鞆ライトフェスタ」のイベントが毎年開催されている。この「鞆ライトフェスタ」は、歴史的港湾遺産である鞆港を活用して手作りランタンによる夜のライトアップや音楽祭などを行い、市民に鞆港への興味や親しみなどを持ってもらうことを目的として開催されている。今年で 6 回目を迎えるが、これまでに「鞆ライトフェスタ」の実施効果については把握されていない。

そこで本研究では、「鞆ライトフェスタ」来訪者を対象としたアンケート調査を実施し、今後のライトフェスタのあり方に資することを目的とする。

2. 鞆ライトフェスタの概要

「鞆ライトフェスタ」は、1999 年から鞆港湾遺産調査を行っている伊東研究室が、2002 年鞆の浦で「第 25 回全国町並みゼミ」が開催されたとき、歴史的港湾遺産活用のひとつとして提案され、始められたものである。2003 年からは地元住民が中心となって開催されている。今年も 8 月 11 日に地元の NGO である「鞆まちづくり工房」が中心となって開催された。地元住民を中心とした手作りランタンのワークショップが昼間行われて約 400 個のランタンを作り、これらが夜の鞆港をライトアップした。この他にライブコンサートの音楽祭や盆踊りなど、毎年趣向を凝らしたイベントが行われている。



写真 - 1 ライトフェスタの様子（大雁木）

3. アンケート調査の概要

アンケートの主な質問項目（表 - 1）は、ライトフェスタの来訪回数、イベント内容に関する感想、ライトフェスタへのイメージ、来訪者の個人属性などであり、最後に意見や感想などについて尋ねた。

4. アンケートの調査結果と分析

4-1 来訪者の属性と訪問回数（設問 1~4）

今回のライトフェスタの来訪者数はおおよそ 130 名程度である。その中で、アンケートのサンプル数は全部で 28 であり、男性が 46%、女性が 54%となった。来訪者を居住地別に集計した結果、広島県内の割合が 71%で、県外からの来訪者は 29%で、ほとんどが広島県内であった。県内だけでは、鞆地区が 75%、鞆以外の福山市内が 15%で、その他が 10%であった。さらには、関東・関西圏などからの来訪者もあった。来訪回数に関しては、初めての人が 60%、2~4 回目が 33%で、5 回以上が 7%となり、6 割が初めてで、リピーターが 4 割いることがわかった。

2 回以上の来訪者に対し「これまでと比較して今回のライトフェスタはどうか」という質問では、「今回の方が良かった」が 66%を占め、「以前と変わらない」と「分からない」が 17%ずつで、「これまでが良かった」と回答した人はいなかった。この理由を自由回答から探ると、「イベント内容に新鮮さがある」や、「雰囲気がよくなった」という意見がみられた。

表 - 1 アンケート項目一覧

質 問	内 容
1	性 別
2	年 齢
3	ライトフェスタに来られたのは今回で何回目ですか？
3a	以前と比べて今回はどうですか？（2回目以上の来訪者）
4	今日はどこから何人で来られましたか？
5	ライトフェスタの情報をどこで知りましたか？
6	今回のライトフェスタで何がよくまた改善点は何ですか？
7	今後また来てみようと思いますか？
8	ライトフェスタを通じて鞆のイメージは変わりましたか？
9	ライトフェスタの運営にも一緒に参加したいですか？
10	今後もライトフェスタを続けた方がいいですか？
11	ライトフェスタに関する意見感想をお聞かせください。

キーワード 鞆の浦 鞆ライトフェスタ 歴史的港湾遺産

連絡先 〒274-8504 千葉県船橋市習志野台7-24-1 都市環境計画研究室 TEL 047-469-5572 E-mail : nakatani19860720@yahoo.co.jp

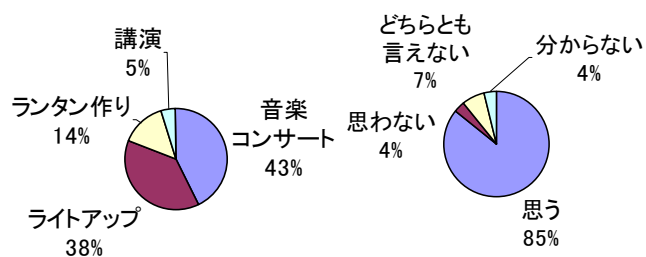


図-1 アンケート結果 (左: 設問 6 右: 設問 7)

4-2 ライトフェスタの意識分析 (設問 5~10)

情報入手方法 (設問 5) は「ポスター」が半数近く占め 43%、「家族」が 15%、「友人」「インターネット」がそれぞれ 12%、「その他」が 18%となった。

よかったイベント内容 (設問 6) は、「音楽コンサート」が 43%と半分近く占め、次に「ライトアップ」が 38%、「ランタン作り」が 14%となった (図-1 左)。

「また来てみたいか」という質問 (設問 7) に対しては、「思う」が 85%となり、ほとんどの来訪者が次回も参加したい意向であった (図-1 右)。

「ライトフェスタを通じての町のイメージの変化」(設問 8 自由回答) は、「昼間と違う町の表情」「新しい発見の連続」など町を再発見する感想や、町景観を再評価する声が多かった。

「運営の立場でライトフェスタに参加したいか」(設問 9) については、「参加したい」が 57%、「どちらとも言えない」が 18%、「分からない」が 14%、「参加したくない」が 11%となり、半数以上がライトフェスタに参加したい意向のあることが分かった。

「今後のライトフェスタを継続」(設問 10) については、9 割近くの来訪者が継続に賛成であった。しかし設問 9 からわかるように、見る (楽しむ) ことは前向きであっても、手を動かして汗をかくこと (運営) には約半数が消極的であることがわかった。

4-3 ライトフェスタに関する意見 (設問 11)

最後の質問項目である「ライトフェスタに関する意見・感想」(設問 11 自由回答) の一覧を示した (表-2)。設問 8 の結果と重複する回答があるが、ここでは設問 11 のみ焦点をあてて集計を行った。

あげられた意見は、次の 5 つに分類される。イベント前段階の「ライトフェスタの情報」、イベントそのものに対する「イベント内容」、イベントに付随した「町の景観」、イベントと地元住民の関係の「住民参加状況」、全体を通した「単純意見」である。

①「ライトフェスタの情報」に関しては事前の情報

表-2 ライトフェスタに関する意見 (設問: 11)

類 型	設問11の自由回答意見一覧
ライトフェスタの情報	地元住民に広く呼びかけるべき
	事前PR不足と情報も乏しかった
	もっと広く全国的に知ってもらわなければならない
イベント内容	イベント内容が全体的に良かった
	歌が上手かった
	今後もよりよいライトフェスタにして欲しい
	イベント内容を多様化して欲しい
町の景観	他の地域を参考にして欲しい
	町がライトフェスタのようなイベントに使われつつ景観が残れば良い
	町の景観が破壊されなければ良い
	広く地元の理解を得たほうがライトフェスタを楽しめる
住民参加状況	地元の人と話し合いの機会をもっと設けた方が良い
	町のために出来ることがあればやりたい
	楽しかった(2名)
単純意見	もう少しちゃんとして欲しい
	無回答(5名)
	特になし(5名)

不足を指摘する意見や、ライトフェスタを全国的にアピールした方が良いという意見なども聞かれた。

②「イベント内容」では、ライトフェスタの内容が良かったという意見が大半であるが、一部の意見としてイベント内容を多様化して欲しい、さらには他の地域を参考にして欲しいという意見があった。

③「町の景観」では、ライトフェスタなどのイベントを通じて町を保存すべきという意見や、町が今のままでの町であって欲しいというものであった。

④「住民参加状況」では地元住民にライトフェスタをよりよく知ってもらい、また地元住民とより多くの話し合いの機会をとという意見であった。

⑤最後の「単純意見」では、全体を通して楽しかったなどであるが、運営方法・イベント内容も含め来訪者の一部から注文を受ける結果となった。

4-4 アンケート調査結果に基づく考察

今回のライトフェスタは、昼間のワークショップをはじめ、町港のライトアップやイベント内容を含め多数の支持を得た結果となった。ただ、今回は参議院選挙が7月29日にあつて新聞で事前に取り上げられなかったこともあり、昨年と比較しPR不足であったことは否めない。寄せられた意見にもイベントのPR不足があげられた。また運営の立場でイベントに参加したいという来訪者が半数いることから、市民が参加し易い環境づくりが、今後の課題と考えられる。

5. おわりに

今回の調査は、来訪者の入れ替わり、アンケート時間の関係でサンプル数が28に留まる結果となった。今後は住民と来訪者に、いかに積極的に参加してもらってライトフェスタを楽しんでもらうか、また運営面でどのように連携をとっていくのか、などが検討課題である。